

大分県立芸術文化短期大学附属図書館

## 図書館だより

No.23  
2014.Oct.

The Oita Prefectural College of Arts and Culture Library Bulletin



表紙作品『easy chair』 入江 早紀(2014年専攻科造形専攻修了)

「ゆったり」をテーマにした椅子の提案です。

包み込まれるような大きな座面は座る人に安心感を与えます。

## Contents

- ① 先生おすすめの一冊
- ② 視聴覚室へ行こう!
- ③ 学生選書ツアー
- ④ こんな本が新しく入りました
- ⑤ Library Lovers' キャンペーン2014のおしらせ
- ⑥ 2014年上半期ベストリーダー

# 先生おすすめの一冊



美術科

鈴木 慎一  
先生

## 『流星ワゴン』

重松清 著 2005年(講談社文庫)

もはやリストラ・不倫・受験等、現代社会に避けて通れない普遍的な題材を書かせたらこの人の右に出る人はいないであろう、直木賞作家重松清の作品です。もう十年ほど前の作品ですが、「本の雑誌」年間ベスト1に輝いた傑作です。

この小説は、信頼していた妻の不倫、優秀だった子どものひきこもりと家庭内暴力、そして、予期せぬリストラによって人生に絶望し、死を覚悟した主人公が、死者の親子が運転するワゴンに乗って現在と過去を往還するという幻想的な物語です。

誰でもが昔を振り返って思う「あの時にああしていれば」という人生の分岐点を主人公が過去に戻ってもう一度体験するにもかかわらずその後の人生は何も変わりません。現実はやっぱり、現実として突きつけられます。でも違うのは、主人公が知ってしまったと言うこと。それだけで、世界は違う風にみえて来ます。何をどう知るか、何をどういう風に見るか、そんなことで人生はがらりと変わって主人公には少しだけ明るい希望が生まれます。日々暮らしていると些細な行動、些末な言動、それがその後の方向を決めるということが、ままたるのに気づきますが、どうしようもなく毎日が過ぎていきます。私たちは、過去の苦悩や悲哀の記憶を受け容れながら、予測できない人生を懸命に生き抜いて行くしかありません。しかし、考え方や捉え方ひとつで人生は変わるんですよと重松さんは語っているように感じます。ですから最後はハッピーエンドではありませんが、心が少しだけ救われる終わり方になっています。

本格的な冬に入る前の物憂げな季節にぴったりな親子とは、夫婦とは何かを考えさせられるちょっぴり重たいけれど良質な小説です。

(すずき しんいち/ビジュアルデザイン)



音楽科

松倉 利之  
先生

## 『音を投げる(作曲思想の射程)』

近藤譲 著 2006年(春秋社)

短大の図書館には私のごく親しい知人二人の著作があります。三宅榛名さんと今回紹介する近藤譲さん、どちらも作曲家で、同じステージで一緒に演奏したことのある方々です。(ちなみに、三宅榛名さんの「作曲家の生活」(晶文社)の中に「松倉利之君が…」という箇所があります。)

先日久しぶりに図書館に行って、この「音を投げる」を見つけました。近藤譲さんは、現代音楽の分野で国際的に活躍されている方で、「線の音楽」という様式を考え出した事でも知られています。

前衛音楽が行き詰まり状態になった時に、もう一度西洋音楽の歴史を作曲家の目線で見直し、そこから独自の作曲様式を考え出した経緯が書かれています。グレゴリオ聖歌に始まって、バロック、古典派、ロマン派、そして新古典派・12音主義、セリー音楽と言う風に、言葉と音との関係を中心に音楽様式がどの様に変遷して行ったかが書かれていて、はっきり言って文章は難しいです。ただ、なぜ私達が西洋音楽史を学ぶ必要があるのかがなんとなく解ると思えます。

難解な文章や漢字が多い中で、近藤さんが作曲家を志して当時の大御所である長谷川良夫氏の門をたたいた時のエピソードや前衛音楽とジャズの決定的な違いなど、親しみやすく「なるほど!」と思わされる部分もあります。

一度読んでみてください。

(まつくら としゆき/打楽器)





国際総合学科

朴 貞蘭

先生

## 『韓国・朝鮮の知を読む』

野間秀樹 編 2014年(CUON)

韓国語Ⅰ・Ⅱを受講している学生から、「韓国に関する本を読みたいけど、何を読めば良いのかがわからない」、「面白い本があれば教えてほしい」と、よく声をかけられるようになった。しかし、最近の学生は、書籍・新聞などの活字メディアではなく、どちらかといえば、K-POPや韓国のドラマ・映画などといった音声や映像がメインとなるメディアに慣れているため、なかなかおすすめできる本が見つからずにいる。活字メディアのもので、有効に活用できる韓国関連の書籍はないのか…と考えていた頃に、本書『韓国・朝鮮の知を読む』が刊行された。

本書は、日本の韓国語学習者であれば、誰もが一度は聞いたことのある言語学者・野間秀樹

先生の編集によるものであるが、文学者や思想家のほか、ジャーナリスト、映画監督、デザイナー、出版人、建築家、情報工学者、神学者、市民運動家、ラジオDJ・テレビVJなどなど、日韓を代表する140人の知性が、読者に向かって丁寧に本を紹介しているという、なんとも贅沢な「ブックガイド」である。まさにこの点が本書の魅せられるところであろう。また、「原著と翻訳書の紹介」という日韓両国における出版情報が得られることも、読者にとって非常にためになると考えられる。

何を読めば良いのか迷う学生に、まずは「韓国・朝鮮の<知>へ近づくための手がかり」(1頁)として、本書(一冊でありながら一冊ではない…!)をおすすめしておきたい。

芸短の皆さん、「知を支える根幹には書物」があります(4頁)。読書の秋に、このような「知の万華鏡」を手にとって、自分と相性の良い本を自ら探してみるのはいかがでしょうか。ぜひチャレンジしてみてください!

(パク・ジョンラン/韓国学)



情報コミュニケーション学科

下川 正晴

先生

## 『「戦争屋」の見た平和日本』

徳岡孝夫 著 1991年(文芸春秋)

「事実を書いてくれ、事実を」

この夏休み、たくさんの本を読みました。特に感銘を受けた本です。著者は僕が勤務していた毎日新聞の先輩です。サイゴン、バンコク特派員として活躍されました。

「新聞の海外特派員は、いつも本社のデスクの顔色をうかがって、原稿を書く。本社が米英撃つべしなら、撃つべしと書く。撃つな、と書けばボツになるのはまだしも、左遷される。即ち、特派員はむかし、国を誤ったのである」。エッセイストの山本夏彦さん(故人)が、この本に「跋文」を書いています。「ひとり本書の著者は、その轍を踏むまいと、ひそかに決心したのだ

ろう」と山本さん。確かに徳岡さんは、そういう新聞記者でした。ソウルやバンコクで特派員経験のある僕は、自らを省みて不明を恥じるばかりです。

「戦争屋」とは何か? この本の編集者は「前線屋」と呼ばれたりする。だが、彼らの活躍を抜きにして、戦争はその悲惨もその滑稽も、真の姿は見せてくれない」と説明しています。本当にその通りです。「真実は細部に宿る」と言います。戦争の現場で書かれた徳岡さんの文章は、まさにそういうものでした。

「私は終始、新聞記者でいたかった(あとがき)。社内的地位は、週刊誌「サンデー毎日」副部長止まりでした。しかし僕のように、私淑する後輩記者は少なくなかった。「事実を書いてくれ、事実を」。徳岡さんは、本書のあちこちで叫んでいます。多くの人に読んでほしい本です。

(しもかわ まさはる/マス・コミュニケーション論)



# 視聴覚室へ 行こう!

■ ■ ~先生おすすめのディスク~

## 劇団☆新感線と舞台劇

DVD

「星の忍者」

「レッツゴー!忍法帖」



情報コミュニケーション学科 狩谷 新 先生

僕が初めて新感線の舞台を観たのは、1995年の2月、現在図書館にある「20世紀ボックス」の中に収録されている「星の忍者」という作品。当時担当番組に出てもらっていたデーモン小暮閣下（悪魔のまま出演）からのご招待、でも祝いの花代の方が高かった！

元々映画、テレビ、コミック、本、雑誌、音楽、ジャンルを問わず、乱観・乱読・乱聴を旨としていたから、抵抗感・先入観の類は一切なかったのだが、テンポの良さと凄まじい音楽、圧倒的なアクションに翻弄され、舞台劇の印象が一変した。それから、一週間、こちらも呼んでいただいた千秋楽（確かこれも観た）「打ち上げ」までに、全劇団員の似顔絵を描いて、一枚ずつ写真立てに入れ、プレゼントしたくらい面白かった。それから、劇団の「追っかけ」になって、池袋サンシャイン劇場に通いつめたか？というところでもない。当時働いていた六本木と言うところから、池袋が行きにくい、というのもあったと思うのだが、どこかで「あの面白さを別の作品で汚したくない」という一種複雑な思いがあったような気がする。

彼らに再び出逢うのは21世紀になってからである。きっかけは阿部サダヲだった。「木更津キャッツアイ」での印象が強烈で、彼の出演作を調べていたら、新感線とのコラボを発見、それが「レッツゴー!忍法帖」。早速DVDを取り寄せて、現在でも幅広く活用させて載っている。その時から、多少系統的に作品を観るようになり、演出家のうえさんの他の作品も観て、図書館に作品を入れてもらうようになった。

結果、わが短大の演劇DVDコレクションは多分他に例を見ないユニークなものになっている。今をときめくチームナックス（お勧めはルーザー）、地球ゴージャス、世界の蜷川（ムサシ）、井上ひさしの名作（天保12年のシェイクスピア）から、クドカン（印獣）まで、どれも個性的で楽しめる作品のオンパレード。

映画もテレビもCDもかつての活況を呈してはいない。現在、娯楽の主流は「ライブ」に移行しつつある。そうすると人口の集中した大都市が有利になっていることは確かだが、パブリックビューイングやゲキシネもある。DVDでも補完することがきっとできる。

（かりや しん／メディア・コミュニケーション）



## ■ ■ 視聴覚室利用ガイド

- ☆ 2階視聴覚室ではオペラやクラシック、映画などを観賞することができます。
- ☆ 友達と一緒に観たい場合は大型テレビのあるグループ学習室をご利用ください。
- ☆ DVDは貸出できませんが、CDは借りることができます。

利用時間 月曜～金曜 12:30～19:00

# 学生選書ツアー

学生が図書館に置きたい本を選ぶ、本年度第1回目の「学生選書ツアー」を6月、大分市内の書店で行いました。選んだ本のうち参加者が特におすすめしたいものについて、コメントを寄せてもらいました。今回選ばれた計104冊の本は、図書館入口の学生選書コーナーに並べていますので、ご覧ください。



## 学生選書ツアーに参加して

美術科 1年 最上 晃啓

入学以来、僕は本学の図書館に通う日が続いています。元々本を読むことは好きでしたが、今のように図書館へ足繁く通うということはありませんでした。利用する頻度が高くなった理由は単純で、「読みたい本があるから」です。本学の図書館は決して大きくはありませんが、書架に並んでいる本はどれも二度、三度と再読する価値のあるものばかり。自然と図書館に足が向くようになりました。

そんな中で偶然目に入ったのが今回の選書ツアーの募集ポスターです。すぐに応募し運良く参加決定の通知が来たものの、今現在所蔵されている本以外に何を置くべ

きだろうと悩みに悩みました。それでも事前に準備を重ね、これ以外に選ぶものは無いと自分なりにベストだと思う本を考えてツアー当日を迎えました。

しかし実際に書店の棚を目の前にすると、自分が考えていたよりもずっと多くの図書館に置きたいと思う本が並んでおり、ここでもまた頭をかかえることに。他のツアー参加者の方々も皆一様に悩んでいた様子で、気付けば制限時間いっぱいまで本の選定をしていました。

今回選定された本はどれもツアーに参加した学生の渾身の一冊です。是非手にとり、楽しんでいただければ幸いです。

## 参加者が特にすすめる本のコメント

美術科 1年 川上裕貴子

### 『セイジ』

辻内智貴 著(光文社)

この本は私が高校生の時に読んだ本です。とても印象に残っていた本なので選ばせていただきました。悩みがあって苦しいなあと思った時に読むといいかもかもしれません。この本の中には、もっと不器用に生きる登場人物「陸の魚」たちが住んでいますから、生と死について考えさせられた作品です。



### 『和菓子のアン』

坂本司 著(光文社)

同じく高校生の時に読んだ本です。和菓子屋でなにげなく売られていた和菓子に、こんな由来があったとは、と驚いた作品です。この小説をきっかけに和菓子に興味がなかった人でも興味を持ってくれると嬉しいです。登場人物たちのあざやかな謎解きも見どころですよ。



美術科 1年 米村 里歩

### 『上村松園』

上村松篁 監修(光村推古書院)

女性日本画家を代表する上村松園の代表作を下絵や解説付きで載せてあり、見応えのある一冊です。中でも私がオススメする作品はP63「焰」、P71「待月」、P109「序の舞」です。どの作品も繊細かつ大胆、洗練された構図と美しい色使いで思わず感嘆してしまいます。



### 『京の色事典330』

藤井健三 監修(平凡社)

330もの美しい京の色を解説と色見本付きで掲載してあります。1ページ1ページが丁寧にしっかりとまとめられているのに、本自体は薄めなので読みやすいです。色や和に興味のある人は、ぜひ手に取ってみてください。



## 美術科 1年 最上 晃啓

### 『鼻行類—新しく発見された哺乳類の構造と生活』

ハラルト・シュテュンプケ 著 (平凡社)

1941年に偶然発見された謎の島、そこには“鼻で歩く”という奇妙な進化を遂げた哺乳類が生息していた…。あらずただでもワクワクしますが、内容は架空の動物を確かな生物学の知識と想像力豊かなユーモアで解説するという、一風変わった知的好奇心を刺激する良書です。



### 『帰ってきたヒトラー 上・下』

ティムール・ヴェルメシュ 著 (河出書房新社)

現代にアドルフ・ヒトラーがそのまま蘇ったとしたら、一体どんなことをするのでしょうか？ マスメディアを駆使しドイツという国を戦争に差し向けたヒトラーの手法は、情報伝達の方法がWEB中心となったいまでも十分に通用してしまうという恐ろしさを実感させられる風刺小説です。



## 美術科 2年 藤岡 寿里

### 『名言探偵』

北國浩二 著 (PHP研究所)

名言オタクの弟、律と弁護士のお兄さんの法男が町の様々な事件を名言と共に解いていくストーリー。見所は世界の偉人や映画、漫画からの名言の数々。特に、あの某週刊誌の漫画からも登場します。是非見てください。



### 『ミュシャ装飾デザイン集』 千足伸行 著 (東京美術)

アール・ヌーヴォーの画家の一人とも言えるアルフォンス・ミュシャの様々なデザインを並べた一冊。絵で楽しむのもありだが、ミュシャのあの不思議な模様を楽しむるので、興味のある方は是非。



## 国際総合学科 1年 溝部 桃子

### 『さあ、気ちがいになりなさい』

フレドリック・ブラウン 著 (早川書房)

この本は、12篇の短篇集。表題作「さあ、気ちがいになりなさい」は、ある男が、衝突事故を境に事故以後の3年間、記憶喪失者を装うことになる。しかし、彼の上司の話を機に、思いもよらぬ事が次々と…。読者の予想を裏切るひねりのテクニックは、何度読んでても面白い。



### 『アインシュタイン ひらめきの言葉』

アルバート・アインシュタイン 著 (ディスカヴァー・トゥエンティワン)

現代物理学の父であるアインシュタインが、私たちに残した言葉(メッセージ)はもちろん、美しく、幻想的な天体写真も見どころです。言葉の力で勇気づけられたり、新たな観点を持てるかもしれません。また、アインシュタインのことをもっと知りたいと思うかもしれません。



## 情報コミュニケーション学科 1年 峯 鈴奈

### 『浜村渚の計算ノート』

青柳碧人 著 (講談社)

この本は、読書が苦手なバリバリ理系の皆さんに読んで欲しい本です。文系にはさっぱりな数学用語がこれでもか!というほど出でます。なかなか本に集中出来なくても、知ってる用語が沢山出てくるので、読んでいて楽しいのではないのでしょうか?是非読んでみてください。



### 『東京バンドワゴン』

小路幸也 著 (集英社)

『東京バンドワゴン』という名前の古本屋さんを中心に、たくさんの人情話が読める作品です。何しろ出てくる登場人物が多いですから、最初は大変ですが、人情話が好き!という人には是非!この作品を読んでもらいたいです。読むときはハンカチのご用意を…。



## 情報コミュニケーション学科 1年 出口 真子

### 『いぐいぐいぐいぐ』

梶山俊夫 作・絵 (フレーベル館)

「一体なんなんだこの絵本は」そう感じた方は少なくはないはず。鮮やかな色使いの表紙に呪文のようなタイトル「いぐいぐいぐいぐ」。絵本を開いたが最後、あなたはこの呪文を唱えずにはいられないはず!ふとした拍子に読み返したくなる絵本です。



### 『としょかんライオン』

ミシェル・ヌードセン 作 ケビン・ホークス 絵 (岩崎書店)

安らぎの場所、図書館。そんな中に一匹の動物が通うようになります。動物の名は百獣の王、ライオン。安らぎとは大きく異なるこの空間で、館長をはじめとした人々はライオンにどのように接するのか。子どもだけが読むにはもったいない、心温まる絵本です。



## 大分県立芸術文化短期大学リポジトリの公開を開始しました

大分県立芸術文化短期大学  
OITA PREFECTURAL COLLEGE OF ARTS AND CULTURE

リポジトリ REPOSITORY

国立情報学研究所が運用するJAIRO Cloud (共用リポジトリサービス)を活用して、本学が発行した研究紀要が創刊号から最新号までインターネット上で閲覧可能になりましたのでお知らせします。ぜひ、アクセスしてみてください。

公開日:平成26年10月1日

URL : <https://geitan.repo.nii.ac.jp>

# こんな本が新しく入りました

2014年4月～9月までの新着図書の中から学科の先生が選んだ資料を中心に一部ご紹介します

学科	図書ラベル	書名	著者	学科	図書ラベル	書名	著者
美術科	361.78/A32	路上観察学入門	赤瀬川原平[ほか]編	音楽科	761.9/Sa25	指揮法教程	斎藤秀雄著
	520.4/A32	超芸術トマソン	赤瀬川原平著		764.6/Kr5	バジル先生の吹奏楽部員のためのココロとカラダの相談室	バジル・クリツツァー著
	674.3/P15	ショッピングイメージグラフィックス in Tokyo+			C/7730/2014	全日本吹奏楽コンクール課題曲参考演奏 [録音資料]	
	706.9/B37	混浴温泉世界：場所とアートの魔術性	Beppu Project著		DVD/1019	Symphonies nos.3, 4 & 5 [映像資料]	Ludwig van Beethoven
	712.33/G87	The art of Henry Moore	Will Grohmann		A2/De/Du VI-2	Pelléas et Mélisande : chant-piano	Claude Debussy
	712.53/N93	The Isamu Noguchi Garden Museum	Isamu Noguchi		B7.43/Tom/AL	Concerto pour clarinette Si b et orchestre	Henri Tomasi
	726.7/Mo82	茂田井武画集：1946→1948	茂田井武画集編集委員会編		B8.32/Hol/Kol	St. Paul's suite : op. 29, no. 2	Gustav Holst
国際総合学科	162/Sh99	ヒンドゥー教の歴史	立川武蔵著	情報コミュニケーション学科	019.53/O14	たましいをゆさぶる絵本の世界	飢肥礼著
	217.6/I95	立ち上がるヒロシマ：1952	岩波書店編集部編集		319.8/H51	戦争をしなくてすむ世界をつくる30の方法	平和をつくる17人著
	302.36/Ta94	カタール・ニヤを知るための50章	立石博高, 奥野良知編著		323.14/O77	憲法ガール	大島義則著
	801.01/Ka25	ベンヤミンの言語哲学：翻訳としての言語、想起からの歴史	柿木伸之著		361/Ma64	加速化依存症：疾走/焦燥/不安の社会学	ましこひでのり著
	829.45/Ma73	消滅の危機にあるハワイ語の復権をめざして	松原好次編著		780.38/Su83	スポーツ大図鑑 = The sports book	レイ・スタッフズ編
	778(W)/Bu	幻影は市電に乗って旅をする [映像資料]	ルイス・ブニエル監督		460/Hy/2	ヒューマン = Human：なぜ人間になれたのか [映像資料]	
	778(W)/Ro	ロスト・ハイウェイ [映像資料]	デヴィッド・リンチ監督		775/Ge	ジバングバンク：五右衛門ロックⅢ [映像資料]	中島かずき作
図書館	070.212/Ka14	記者たちは海に向かった：津波と放射能と福島民友新聞	門田隆将著	図書館	726.5/A49	空想工房の絵本	安野光雅著
	302.53/Ts94	(株)貧困大国アメリカ	堤未果著		766.1/Ts41	オペラは脚本(リブレット)から	辻昌宏著
	336.2/B77	デザイン思考が世界を変える：イノベーションを導く新しい考え方	ティム・ブラウン著		933.7/B13	かもめのジョナサン 完成版	リチャード・バック[著]
	486/Ma52	世界一うつくしい昆虫図鑑	クリストファー・マーラー著		778(J)/So	そして父になる [映像資料]	是枝裕和 監督・脚本・編集

※[映像資料]は貸出できません。視聴覚室またはグループ学習室で鑑賞できます。

図書館職員注目の一冊

## 『フランス語で日記をつけよう』 長野督 著 856/N16

毎日、ちょこちょこっとメモ程度から始め、少しずつ構文を真似て書いてみたり、形容詞などの語彙を増やすことによって、こっそり楽しくフランス語を学ぶことが出来るって素敵なメソッドだと思います。語学は「継続」ですよ。(みよし)



## 『平安女子の楽しい!生活』 川村裕子 著 210.36/Ka95

1000年以上前の平安時代の女子たちも現代の女子たちと同じです！おしゃれや恋愛を楽しみ、就活で悩み、占いに頼ってしまうこともしばしば。分かりやすい言葉で解説されているので、「あるある♪」とくすくす笑いながら楽しんで古典の世界を覗いてみてください。(うしじま)



## 『世界の夢の図書館』 清水玲奈ほか 執筆 010.2/Se22

まるで宮殿のように重厚で絢爛な図書館から先進的でユニークな建築の図書館まで、世界遺産を含めた選りすぐりの37館を紹介。歴史・美術・建築的にも貴重な図書館が堪能できます。各館の見どころや収蔵数などのデータもあり、実際に訪れる際にも役立ちそうです。(おの)



## 『女子の人間関係』 水島広子 著 143.5/Mi96

友達、先輩、先生…いろんな“女子”との接し方に悩むあなたへ。本書はそんな“女子”への見方を変えることで、今よりずっと楽に付き合っていく方法を教えてください。女性の多い芸短だからこそ、誰もが共感しやすい一冊では…?!(うりゅう)



2014年10月20日(月)～11月14日(金)  
図書館1階ロビーにて開催

九州地区大学図書館協議会事業  
Library Lovers' キャンペーンに  
今年も参加します！



図書館って暗いし、入りにくいし、遠い、難しい本ばかりで  
なんだかとつきにくい……。

そんなイメージを大学図書館に持っていませんか？

大学図書館は調査研究資料の提供の場ですが、それだけではなく、専門分野を超えて興味を広げ、深めることのできる場です。Library Lovers' キャンペーンは、そんな学生のみならず

図書館を好きになってもらいたい

図書館を様々な本や知識、そして人との出会いの場にしたい

というコンセプトのもと、九州地区の国公私立大学・高専図書館が行っている共同イベントです。  
図書館にはあまり行かないなあという方もこの秋、図書館に足を運んでみませんか？

今年の合同企画のテーマは

「衝撃のワンフレーズ — この一言があなたを変える」

投稿は図書館1階ロビーに設置している投稿用紙、または投稿用WEBフォームからお待ちしています。詳しくは図書館ホームページをご覧ください。あなたの"シビれた"最高の一言を教えてください！

Library Lovers' キャンペーン2014 <http://librarylovers.blog.jp/>



## 2014年上半期ベストリーダー決定版！！

4/1～9/30までに図書館で一番多く借りられた図書を分野別に発表します！

0. 総記	「デザインの組み方：見てわかるレイアウトの新ルール」 甲谷一著	5. 技術	「ムダなくおいしい！ひとりぶんのササッとごはん」 小田真規子著
	「MODO★Beginners」 柳村徳彦著		6. 産業
1. 哲学	「人生はニヤンとかなる！：明日に幸福をまねく68の方法」 水野敬也, 長沼直樹著	7. 芸術	「日本画技法講座 花を描く」
	2. 歴史		「ヨーロッパの歴史 [改訂版]」 榊山紘一編
3. 社会科学	「最新最強の就活セミナー一般常識&最新時事 '13年版」 根岸博之監修	9. 文学	「イニシエーション・ラブ」 乾くるみ著
	4. 自然科学		「ときめく鉱物図鑑」 山と溪谷社編
	「ニューワイド学研の図鑑 鳥 [増補改訂]」		

本や楽譜などの資料の  
購入リクエストはMyOPACの  
から受付しています！



ただし、ライトノベル等当館の収書方針に合わない  
資料は購入を見合わせています。  
まずはリクエストを送ってみてください！

県立図書館の本の  
取り寄せもしています！

申込みは図書館カウンターまで  
直接おこしてください  
自分に合った図書館の使い方を  
探してみてください



ほん太

大分県立芸術文化短期大学附属図書館  
図書館だより No.23

発行日 2014年10月20日発行  
編集・発行 大分県立芸術文化短期大学 附属図書館  
〒870-0833 大分市上野丘東1番11号  
TEL・FAX (097) 545-4235  
<http://ex2014.oita-pjc.ac.jp/library/>  
図書館キャラクターデザイン：若杉郁子